

ひだご坊
No.353
2018年12月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

仏花をとおして

高名和丸



〔略歴〕
一九五二年、青森県生まれ。
大谷大学文学部仏教学科卒業。
奥羽教区正行寺住職。
同朋会館教導、真宗本願教化教
導、教誨師。

私がおあずかりしてい

るお寺は、龍飛岬にほど
近い、津軽海峡に面した
ところにあります。境内
の前が、道路と護岸があ
るだけで直接海です。本
堂の入り口から北海道の
山々がきれいに見えま
す。

うちのお寺では、先代
住職もそうしていたので、
住職が立華をします。初
めは「大変だなあ」と思
いながらやっていたので
すが、今は、大変には大
変なのですが、ある意味
で楽しんでやっています。

真宗では、「仏さまに
お花を備える」と表記し
ます。そこには、お花の
姿を通して仏さまから私
たちに法が説かれてい
る、という意味があるの

ではないでしょうか。

花は、どの花も、別の
花と自分を見比べて、
自分のほうが優れている
と威張ったり、なんてみ
すばらしいと落ち込んだ
りすることなく、赤い花
は赤い花として、白い花
は白い花として、自らの
いのちを表現していま
す。

このことは、私たちの
いのちが、実は、比べる
ことを超えたいのちな
だという法が説かれてい
るのではないでしょ
うか。

「チューリップ」とい
う童話があります。

咲いた咲いた
チューリップの花が
ならんだならんだ

赤白 黄色

どの花見ても きれいだな

私たちは日ごろ、比べ
て優劣をつける世界しか
見えなくなっています。
例えば「赤はとつてもき
れいだ」と言うと、次に
は「白はまあまあきれ
いだ」と言います。そし
て

「黄色はたいしたことな
い」と言います。必ず比
べて優劣をつける、それ
が私たちの日ごろの心で
す。しかし、このうた
は、「どの花見てもきれ
いだな」と歌っていま
す。「あなたはあなたで
あることにおいて尊い」
という世界がうたわれて
いるのです。
また、花は、どんな状

況のところ生きる縁が
結ばれても、そこで精一
杯のちを表現していま
す。「こんな土地のや
せた、風も冷たい、日
当たりの悪いところで
は、まともに咲けはしな
い。だったら、咲くだけ
馬鹿馬鹿しい。咲くのは
やめた」こんな言葉を花
から聞いたことはありません。
花は、どこに生き
る縁が結ばれても、たと
え途中で折れても、かじ
かんでも、あるいは結局
咲くことができなかった
としても、精一杯、花の
いのちを表現していま
す。

亡くなられましたが、
長谷川はつさんというご
門徒がおられました。隣
町の方で、報恩講などに
はお寺に泊りがけでお参
りしていました。「生き
るということ、苦勞や
悩みが尽きない。御本尊
のあの姿は、苦勞や悩
みがある私たちだからこ
そ、立ち上がってすくわ
ずにおれない、という仏
さまの心をあらわしたお
姿だという。そのことを
おもえば、苦勞や悩みの
あるこここそ、仏さまに
手を合わせ、お念仏申す
ここなんだ」と語ってお
られました。「こここそ、
お念仏申す場なのだ」と。



高山別院お煤払い 奉仕のお願い



12月21日(金)午後1時より、本堂のお煤払いを
行います。一年の汚れを落とし、新年をお迎
えします。
ぜひともご奉仕をお願いいたします。

※持参品 マスク・タオル・軍手 など

御遠忌讃仰 第37回真宗公開講座 第2回

テーマ「海が聞こえる」
日時 2019年2月18日(月)
午後2時
講師 酒井 義一氏
(東京教区存明寺住職・本山同朋会館教導)

親鸞聖人のご遺骨発見!

実は、別院蓮池前の「納骨堂」で親鸞聖人のご遺骨を発見しました。びっくりしま
した。黄金の多宝塔の上層の中に、ガラス製宝珠の舍利容器が納められており、台座
の裏には「宗祖御骨」と記され、「第十四号」の番号がつけてありました。納骨堂に
は「蓮如・実如・証如・琢如・従如」など、中世から近世にかけての歴代上人のご遺
骨(分骨)が納められた宝珠型舍利容器があることは知っていました。また、納骨堂
の中央にある厨子の中に黄金の多宝塔があることも知っていました。その中味に
ついては今日まで知りませんでした。本年十月、京都の大谷大学が別院の法宝物調査
に入ったのを機に、思いきって多宝塔の中を調査して、「宗祖御骨」を発見したので
す。手が震えました。東本願寺第十三世宣如上人の娘・佐奈姫が照蓮寺第十五世宣心
に興入れされた時(一六四一年)、本山より贈られたものと推察しています。全国に
は高山別院より大きな別院もありますが、特に宗祖の分骨がなされていないことから
考えると、姻戚寺院となったことが深く関係していると思われる。本年十月十二日
から十一月二十八日まで、大谷大学博物館
において『飛騨真宗の伝統展』が開かれ、
他の法宝物とともに宗祖御遺骨が公開され
ました。

来年五月十日から十二日の三日間、宗祖
親鸞聖人七五〇回御遠忌法要に当たり、「飛
騨と親鸞聖人展」を開催することを機に展
示公開いたします。



全金箔でできた多宝塔

高山別院輪番 三島多聞
宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

家族で話そう

新連載

仏教×グリーフケア①

尾角 光美



（略歴）一般社団法人リヴオン代表。2009年リヴオンを設立。「グリーフケアが当たり前になる社会の実現」を目指して活動している。著者に「なくしたものとつながる生き方」。

はじめに

はじめまして。一般社団法人リヴオンという団体で代表を務めております、尾角光美と申します。約16年前のことになりますが、私は19歳で母を自殺で亡くして以来、「グリーフケア」というものに出会い、これがこの社会に当たり前に満ち満ちていくように、との願いから活動をしてまいりました。

大谷派とご縁は、2010年5月に富山県で開かれた第33回北陸連区差別問題研修会「『世をいとうしるし』ー自死（自殺）の問題を通じて学びあうー」に講師としてお招きいただいたところからだったと記憶しております。「自殺は罪なのか」というテーマで梶原敬一先生と対談させていただき、私自身、仏教の視点から深くこのテーマを見つめ直す貴重な機会となりました。その時に石川県小松市にある勝光寺の能郵勇樹ご住職から「ずっとお寺でグリーフケアをやりたいと思っていませんか」とお声かけいただき、「グリー

フサポート連続講座」を5回連続で開講いたしました。その講座から死別を支え、分かち合う2つの団体「グリーフシェアリング小松」と「ともいき」が生まれました。そして今もなお、大切な人を亡くされた方々のために場を開かれています。昨年から今年にかけては、名古屋教区第2組で5回連続の講座を、横浜別院さんで3回連続研修会を続けておこない、24〜80歳の55名の僧侶、寺族、ご門徒さんを対象として学ぶ場を開かせていただきました。ご縁はますます深まり、この輪がさらに多くのご遺族に届けばと願っております。

グリーフケアってなに？

さて、改めて、みなさんは「グリーフ」という言葉を聞かれたことはありますかでしょうか。リヴオンでは「大切な人やものの喪失によって生まれてくる、その人なりの自然な反応、感情、プロセス」と定義しています。飼っていたペットが亡くなつて悲しい。もつとよい病院を探してあげればよかったと後悔する。過労死で大事な伴侶を亡くして怒りを感じている。大変な介護の末に親を看取つて、実は安堵を感じている。あまりに突然の死で何も感じられない。悲しみ、後悔、怒り、安心、無感動……。そのどれもが「自然」であり、おかしい反応は一つとしてありません。グリーフケアというのは、その人がその人なりに、失ったこと、亡くした人を大切にしながら生きていくためのお手伝いです。

リヴオンの現場では、親や兄弟姉妹などを亡くした若者がつどえる「ピアサポート」（近い体験をした者同士がつどい、経験を分かち合うこと）の機会を提供したり、僧侶や医療者、行政の人たちが「死別を支える」ために何ができるのかを学べる研修、連続講座などを企画したりしています。私たちはみな大切な人の死を経験していきます。そういった意味において、すべての人が「当事者」であることを踏まえて、学ぶ機会や、自分自身のグリーフを大事にする場をつくっています。

死別の支えを「当たり前」に

自分はピアサポートを始め、多くの大人によって助けられてきました。「たまたま」私は親を亡くしても救われた身だったのです。これが「たまたま」ではなく「当たり前」にした」と心から願って活動してきました。「グリーフケア・サポートが当たり前にある社会」を築くため、現在、リヴオンを運営する一方で、英国のバース大学大学院で社会政策学の博士課程にも在籍しながら研究をしています。イギリスでは身内が亡くなった時に、医師や葬儀社、宗教者から、グリーフサポートが提供されます。「死別」の際に、サポートが必要なことがあると認識される社会になっているのです。日本でも死別をいつ、どこで、どんな形で経験しても確実にサポートにつながる社会を形にするべく、課題や学びを共有してまいります。そもそも「グリーフケア」という言葉がない時代から、グリーフケアの役割は日本仏教がずっと果たしてきたことと思います。仏教とグリーフケアの重なりもみなさまと一緒に考えていければ幸いです。

次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑥」です。

大谷婦人会

新年定例会

日時 1月11日（金）
午後1時から
法話 三島 多聞輪番
会場 高山別院
庫裡ホール

※甘酒の接待があります。

ご壇案内

1月11日（金）映芳寺「下之町」
14日（月）稱讚寺「下之町」

高山別院
テレホン法話
(0577)34-2313
約3分間の法話をいつでも通話料のみで聴聞いただけます。毎月1日、11日、21日に法話の内容がわかります。

除夜の鐘と修正会

— お正月も飛騨御坊にお参りください —



高山別院では年越し前から除夜の鐘つきが始まり、年が明け、午前0時から本堂にて修正会が勤められます。修正会は、一年の初めに荘厳を整え、身も心もひきしめ、仏恩報謝の思いをもって新しい年にのぞむ仏事です。ぜひ、高山別院にお参りいただき、新年の歩みを始めましょう。

除夜の鐘 12月31日（月）午後11時45分 ※甘酒を用意しております
修正会 1月1日（火）午前0時 三島 多聞 輪番
1月2日（水）午後1時 三本 昌之 氏
1月3日（木）午後1時 小原 正憲 氏

飛騨御坊御遠忌七五〇 帰敬式（おかみそり）を受けませんか？

帰敬式は、私たちにとって本当に大切なことは何か、よりどころとするものは何かを問い直す人生の再出発の儀式です。

帰敬式では、髪をおろす（剃る）ことをかたどった剃刀の儀と、釈迦牟尼仏の「釋」の字が冠せられた法名の授与が行われます。

人生の新たな歩み出しとして、ぜひ5月11日、飛騨御坊御遠忌七五〇を機に帰敬式をお受けください。

日時 2019年5月11日（土）
午後4時
会場 高山別院本堂
冥加金 13,000円
定員 200名（定員になり次第締め切ります）

お申し込みはお手次のお寺を通してお願いいたします。

